

# 研究成果報告書

令和4年8月31日

## 1. 所属・職・氏名等

学校教育学科 教職支援センター長・教授 廣田 健

[共同研究者]

教職支援センター・特任教授 宮下 聡

教職支援センター・特任教授 泉 宜宏

## 2. 研究課題（テーマ）名

I C Tの活用による教職にある卒業生支援と教員養成カリキュラムの改善に関する研究

## 3. 研究期間

令和2年度及び令和3年度（2020年4月～2022年3月）

## 4. 利用した研究費の種類及び金額

重点領域研究費 1,376,134円

## 5. 研究の概要

本研究は教職支援センター第2部門のスタッフを中心に、本学教員養成カリキュラムの改善及び教職支援センター業務の改善を目指して、以下の目的で進められた。

- ①従来型の直接対面方式と Zoom など遠隔による方式の教職支援交流会という2つの活動が拓く新たな可能性の利点や弱点について実践的に明らかにしつつ新しい卒業生支援のあり方を追究する。
- ②これまでの教職実践研究会の実績に加え、新たにメールやインターネットを使った教育実践の交流や作成教材の共有など、全国に卒業生ネットワークをもつ本学の長を生かした教職実践研究の可能性を追究する。
- ③教職支援交流会や教職実践研究会の中で紹介される教育実践や教材の蓄積と共有を行うと共に、この中で出された疑問に答えられるようなベテラン教師の実践や教材を、資料化して学部生・院生・卒業生に提供できるよう準備する。
- ④本学における教員養成と卒業生支援のあり方について成果と課題を明らかにするとともに、本学の教員養成カリキュラムや授業改善に向けた課題と解決策を探る。

本来、上記目的「②」については、本来ならば優れた教育実践の現場に取材に行くことで教室の実際の授業や教育研究活動の実際を資料化する予定であった。しかし、コロナ禍によって実際の現場での取材や教材化は難しく、代わりに遠隔で本学学生向けの講義などを実施

して頂くことでこれに代えることとした。

## ■ 2020 年度

これまでの教職支援交流会の実績をもとに、まず可能な地域から Zoom による地域ごとの教職支援交流会を 2020 年度は 24 回実施した。

このようなオンラインでの交流会実施の利点として、空間的な距離というハンディを超えた遠隔地間の交流を可能にしたことが挙げられる。これによって、地域にこだわらない支援交流会を実施することが可能になり、2020 年度には 2019 年度に卒業した新卒卒業者を対象とした支援交流会を 5 月～6 月期に 2 回実施し、さらに 6 月期には青森、山形、宮城という広域の東北エリアで教職支援交流会を実施するなど、これまで直接参加が困難であった広域エリアをカバーする支援交流会を展開することが出来た。

また、単に会場への移動距離の問題だけではなく部活動の指導をはじめとした休日勤務があつて、地域的には移動が可能でも、時間的に移動が難しい卒業生も、オンライン実施によって部活動指導前や、職場から時間の合間を見て参加することが可能になった。

しかし、このようなオンライン・遠隔開催だけでは教職支援交流会開催の意義は達成されない。参加者から「オンラインでは直接対面することで得られる人間的な信頼関係を基盤にした安心感を得ることは困難である」との意見が多く寄せられた。

そこで、「対面」を基本としつつ、オンラン併用するハイブリッド型の教職支援交流会の開催へと転換した。このハイブリッド型の支援交流会は、対面による信頼感の増加に加えて、対面によって卒業年度を超えて交流できる職能グループを地域毎に形成し、支援交流会と支援交流会の間のピアサポート・グループとして機能する集団を形成する機能の端緒ともなることが確認された。

というのは、本学の教員による支援交流会の実施は、本学のリソース上の制限から、年に複数回・同一地域で行うことは非常に困難がある。この時、当該地域において現職教員の卒業生同士がお互いに支えあいながら、支援交流会から次回支援交流会の間を補完しながら交流を進める「地域の交流仲間」＝「ピアサポート・グループ」の存在が必要だからである。このため、「大学一地域」の関係だけではなく、「現地会場一対面に参加できない地域の教員」という、現地会場と当該地域の会場に参加できない者とのハイブリッド開催が必要であることが判明した。この試みを通して、ハイブリッド型の教職支援交流会実施のための機器の整備と通信環境の確保が課題として明らかになってきた。

また、若い教師が直面する授業や生徒指導上の課題解決に活用できるような授業実践集や教材集の作成の試みとして、Zoom によるオンラインの学習会を実施し、その内容を録画して作成する教職支援ライブラリー「明日の教師たちへ」を 12 回実施して、記録として残すことが出来た。また、「明日の教師たちへ (4) 作って遊ぼう」は、コロナ感染の広がりによるフィールド研究 I の代替授業の中でも活用された。

## ■ 2021 年度

2020 年度の成果も踏まえながら、これまでの地域別のハイブリット交流会に加え、新た

に研究テーマ別、参加対象者別、及び学年・校種別の Zoom を活用した研究交流会の開催に向けての試行を実施した。この試みは、実践としては「こくばんの会」「新入職者」対象の支援交流会に反映された。

またハイブリッド開催の可能性を追求するために、本学を起点とするだけでなく通信環境が十分ではない各地域の公共施設でもハイブリッド型の教職支援交流会が実施できるようにレンタル・ポケット Wi-Fi を活用する試みも実施した。その成果の上に立って、大学としてポケット Wi-Fi を準備し、それを教職支援センターが貸し出しを受けて活用するという仕組みがつけられた。

- ・令和3年度は17回の教職支援交流会を実施し、山梨で2回、名古屋（愛知、岐阜、三重）浜松（静岡）などでハイブリッド型の教職支援交流会を実施した。
- ・教職支援交流会の参加者の声を活かして、1時間の授業記録（板書画像やタブレット画面）をもとに、授業内容について語り合う「こくばんの会」が実施されるようになった。6月から7回（月1回程度）実施し、この会には在學生も参加してきている。教職をめざす学生にとっても、現場の若手教員のリアルな姿とその経験に学ぶ場となっている。
- ・オンラインによる学習会は、「大学の授業でも活用できるような1テーマについて短時間でまとめられた内容のものも必要である」という考えのもと、15分から30分ほどの内容のものをつくり蓄積している。番組として収録は講師の講義だけだが、後半は、講師と参加者との交流の場とした。これは参加した在學生にとっても有意義な学びの場となっている。今年度は24回実施し、その内容は4年生の卒論、院生の修士論文作成のための基礎資料としても活用されている。
- ・この実践ライブラリーは、優れた教育実践の記録であり、ベテラン教員が大量に退職している現状がある中で、教員実践の継承という意味でも社会的意味がある。
- ・これらの成果をもとに、科学研究費補助金等の外部資金の申請を行ってきたが、未だに果たせてはいない。この2年間の成果と課題について深く問い直しながら、新たな研究の発展と、卒業後の支援も含めた本学の教員養成カリキュラムの改善にむけて努力を重ねたい。

## 6. 研究成果等

- (1) 教職支援交流会のハイブリッド開催を可能としたこと。これによって、
- ① これまで部活動等によって教職支援交流会に参加できなかった中等教育の教員の参加が容易になったこと。また、卒業生が少ない地域でも広域開催ができ、卒業生とのつながりが増えたこと
  - ② 地域毎の卒業生つながりが強化されピアサポート・グループの形成の端緒となっていること
  - ③ 相談・交流活動中心の教職支援交流会から授業・生徒指導等の実践交流の場となる新しい形の支援交流・研究会が実施できたこと。これによって、コロナ過で中断していた教職実践交流会（2022年8月開催）の参加につながったこと（2日間で120人以上の参加）。

- ④ 前項の継続的取り組みとして「こくばんの会」が、月一回のペースで実施されていること
- (2) 教職支援ライブラリーの作成と利用。これによって、
  - ① 優れた実践の収集を行うことができたこと。これによって、現在学校現場で問題になっている「団塊の世代」の大量退職による優れた教員実践の継承の課題を解決する一助となったこと
  - ② 大学教員では難しい教育実践を扱っていること、及びコロナ禍の現場体験を補うものとして、教育フィールド研究をはじめとする授業で活用されていること
  - ③ 教育実践を研究する学生・院生及び現場教員の資質・技能向上のために利用されていること
  - ④ 卒業論文及び修士論文の資料提供と登場した実践者の紹介につかわれていること
- (3) ICTを利用した教育及びGIGA スクール構想に対応した実践研究の端緒となったこと
- (4) 本報告書に記した事業及び他の教職支援センター事業を通じて学部学生に大学院進学  
のモチベーションを与え、本学大学院への進学を増やしたこと

## 7. 研究の実績（論文・発表 等）

- (1) 教職支援センター年報・第7集
  - ① 宮下聡・廣田健「教師教育としての学生支援と若い教師支援 — 都留文科大学教職支援センターとしてのとりくみの到達点と可能性」
- (2) 教職支援センター年報・第8集
  - ② 廣田健「教職支援センターの現状と課題」
  - ③ 宮下聡「教師教育としての学生支援と若い教師支援 (2)  
— 学生の学びと卒後支援をつなぐ教職支援センター事業の発展と意義 —」
  - ④ 泉宜宏「いくつかの重なり合う風景の中で 教職支援センターにおけるナラティブ  
的探究 (Narrative Inquiry)」
- (3) 教職支援ライブラリー「明日の教師たちへ」の作成
  - 別紙参照

2020年度	講師	時間	実施日	備考
<b>明日の教師たちへシリーズ</b>				
<b>■（１）子ども理解のために</b>				
コロナ時代を共に生きる 子ども・父母・教師 ～今あらためて問う、子どもの存在と生活綴方実践	白木次男（福島）	90分	10月28日	●
子どもたちと共に「希望」を紡ぐ ～原 発・被災の地、福島で	白木次男（福島）	90分	12月15日	●
子どもたちのメッセージを読みたい・受けとめたい	太田一徹（北海道）	90分	12月24日	●
子どもの心の扉～”表現”と子ども・教師の成長	太田一徹（北海道）	90分	1月7日	●
児童詩～書くことの大切さ	阿部俊樹（北海道）	90分	1月19日	●
子どもたちから学んで子どもたちと歩む	阿部俊樹（北海道）	90分	2月2日	●
<b>■（２）豊かな授業と学級づくり</b>				
大人も子どもも楽しんで…詩の授業入門	佐藤 歩（東京）	90分?	9月11日	
書いて、読み合っ、今を生きる ～3、4年生の詩と学級づくり	伊藤佳世子（東京）	90分	12月2日	
アニメーションで日本国憲法	佐藤広也（北海道）	90分	1月26日	●
感染症をどう教えるか	佐藤広也（北海道）	90分	2月3日	●
総合学習(総合的探究)の意義と可能性 私たちは音を出したい 松本深志高校地域フォーラム「鼎談深志」を創る	林直哉（長野）	90分	1月28日	●
高等学校における特別活動の必要性を語る 「クラブで生徒が育つなら、部活動だけでいいのでは・・・」 教師になりたてのときの疑問が、その後の歩みを決めた。	林直哉（長野）	90分	2月4日	●
<b>■（３）子どもの文化</b>				
紙芝居の魅力～児童文化入門 (紙芝居と手あそび指あそび)	菊地好江（東京）	90分	12月22日	



2021年度 明日の教師たちへシリーズ～明日へのバトン

	テーマ	講師	時間	実施日	備考
1	①教師を生きる喜びと教師の成長(教師論)	山崎隆夫(東京)	45分	9月25日(土)	
2	②子どもを理解するとは(子ども論)	山崎隆夫(東京)	45分	10月6日(水)	
3	③楽しい学びと子どもたち(授業論)	山崎隆夫(東京)	45分	10月13日(水)	
4	④「ぞうさん」の詩人まど・みちお	岩辺泰史(東京)	30分	9月26日(日)	
5	⑤まどさんと遊ぼう、楽しもう	岩辺泰史(東京)	30分	10月16日(月)	
6	⑥心にまどさんの言葉を刻もう	岩辺泰史(東京)	30分	10月24日(日)	
7	⑦言葉を文字にとじこめない (1)「言葉を文字にとじこめない」ってどういうこと (2)ことばは音だ	霜村三二(埼玉)	20分 ×2	10月20日(水)	
8	⑧言葉を文字にとじこめない (3)言葉は表現 (4)ことばと文字～訓練からぬけたすときに見えてくること	霜村三二(埼玉)	20分×2	12月6日(月)	
9	⑨言葉を文字にとじこめない (5)デザート授業を楽しむ (6)デザート授業を楽しむ～漢字の場合	霜村三二(埼玉)	20分×2	3月30日(月)	
10	⑩国語辞典で遊ぼう	岩辺泰史(東京)	30分	12月12日(日)	
11	⑪児童詩のすすめ	太田一徹(札幌)	45分	12月19日(木)	
12	⑫絵本っていいな～教室で読み聞かせを(1)	宮田稔(京都)	20分	1月14日(金)	
13	⑬絵本っていいな～教室で読み聞かせを(2)	宮田稔(京都)	20分	1月17日(月)	
14	⑭絵本っていいな～教室で読み聞かせを(3)	宮田稔(京都)	20分	1月24日(月)	
15	★絵本っていいな～教室で読み聞かせを(4)	宮田稔(京都)	20分	2月11日(水)	
16	⑮仲間と育ち合う教室づくり～算数を中心に	渡辺恵津子(埼玉)	60分	2月16日(水)	
17	⑯仲間と育ち合う教室づくり～算数を中心に	渡辺恵津子(埼玉)	60分	3月2日(水)	
18	⑰出会ってきた子どもたちと詩の魅力(1)	森朋子(東京)	60分	3月9日(水)	
19	⑰出会ってきた子どもたちと詩の魅力(2)	森朋子(東京)	60分	3月20日(日)	
20	⑲「子ども理解のカンファレンス」に学ぶ 中学校教師としての実践から『子ども理解のカンファレンス』へ	福井雅英(滋賀)	60分	3月10日(木)	
21	⑳「子ども理解のカンファレンス」に学ぶ いま、理解のカンファレンスを	福井雅英(滋賀)	60分	3月12日(土)	

22	21. 「子ども理解のカンファレンス」に学ぶ 青森の生活綴り教師 津田八州男に学ぶ	福井雅英 (滋賀)	60分	3月17日(木)	
23	23. 俳句探偵団と 『はらぺこあおむし』でアニメーション	佐藤広也 (札幌)	20分	3月27日(日)	
24	24. 俳句探偵団と 『はらぺこあおむし』でアニメーション	佐藤広也 (札幌)	20分	3月29日(火)	



2021年度	講師	時間	実施日	備考
<b>明日の教師たちへシリーズ</b>				
<b>■ワンポイントアドバイス…テーマごとに15分</b>				
ことばを文字にとじこめない	霜村三二	15分	10月20日	
ことばは音だ	霜村三二	15分	10月20日	
ことばは表現～子どものことば	霜村三二	15分		
ことばと文字 ～訓練からぬけだすときに見えてくること	霜村三二	15分		
ひらがなあそび～オリジナルを大切に	霜村三二	15分		
イメージこそ音読のもと～物語をタンテイする	霜村三二	15分		
思考とことば～ハンセン病を入口に	霜村三二	15分		
<b>紙芝居</b>	菊地好江さん			
<b>生活綴方</b>	太田一徹さん			
<b>高校の総合・特活</b>	林直哉さん			